

優秀賞

## 「絆」を紡ぐ祖母の温もり

山形県 米沢市立第二中学校三年 遠藤 みか

「コーポ吉田」、それは祖母が約五十年にわたって守ってきたアパートだ。私は、幼い頃から祖母の働く姿や学生達との関わりを見てきた。虫が出れば夜中でも駆除し、家賃を支払いに訪れた学生にはお菓子やティッシュを与え、学生が引っ越し際には粗大ごみの処分や掃除を懸命に手伝う。私は、アパートの経営者である祖母が、入居者である学生達になぜそこまで尽くすのか理解できなかった。

今年の春、新しく入居する学生の方と親御さんが挨拶にいらっしやう。

「おばさん、お久しぶりです。」

「えっ、まあまあ、もしかしたらAさん？」

「はい、今度は息子がお世話になります。」

私は、楽しそうに話す三人の笑顔を見ながら、親子二代で同じアパートに暮らすという偶然もあるのだろうかと思った。

またある日、祖母と公園に散歩に行った時、一人の若者が祖母の声に気づいて駆け寄って来た。その方も以前、祖母のアパートの入居者だったそうで、当時のお礼や近況を話して下さった。その時の祖母の様子があまりにも楽しそうだったので、私まで幸せな気持ちになって見守った。

公園からの帰り道、私は思い切って尋ねた。

「ばあちゃん、アパートの手入れだけでも大変なのに、なんで学生さん達にあんなに尽くしてあげられるの。」

祖母は、

「この年になって色々なことを経験すると、みんな自分の子供のようにかわいく見えるんだよ。」

と言って微笑んだ。その笑顔は、五十年にわたって学生たちに寄り添ってきた祖母だからこそその温かさ溢れていた。アパート経営者としての姿に留まら

ず、祖母自身が語るように「子供を思う母親」の笑顔に見えた。

私はまだ中学生なので祖母の気持ちを完全に理解することはできない。それでも、祖母の姿から一つだけわかったことがある。それは、祖母の学生達に対する一人の人間としての温もりが時間や場所を越え、途切れることのない「絆」になったのではないかとことだ。親子二代でアパートに入居してくれたことも祖母の声に気付き駆け寄ってくれたことも、その「絆」のお陰なのではないだろうか。また、祖母が困難を乗り越えて半世紀にもわたってアパート経営をしてこられたのは、こうした学生の皆さんとの「絆」のお陰かもしれない。

私は祖母の姿を通して、人が人を思うことで生まれる「絆」の尊さを知った。自分自身を見つめ直す時、私自身も沢山の友達に心配してもらったり、助けてもらったりしている。そうした人達との「絆」に気づくと、何気ない日常生活の中にも幸せを見つめることができるのだと思う。祖母の温もりと人々との「絆」を大切に、明日も生きようと思う。

